

フルスペックエミュレータ PC7501 ご使用上のお願い

M16Cファミリ用フルスペックエミュレータ PC7501 使用上の注意事項を連絡します。

- カバレッジ計測機能の使用について

1. 該当製品

M16Cファミリ用フルスペックエミュレータ : PC7501

補足 : PC7501は以下のエミュレーションプローブと組み合わせて使用します。

- M32C/81, M32C/82, M32C/83グループ用 M30830T-EPB
- M32C/80, M32C/84, M32C/85, M32C/86グループ用 M30850T-EPB
- M32C/87グループ用 M30870T-EPB
- M32C/88グループ用 M30880T-EPB
- M16C/70グループM30700FJLGP用 M3070JT-EPB
- M16C/70グループM30700FKLGP用 M3070KT-EPB
- M16C/62P, M16C/30Pグループ用 M3062PT2-EPB
- M16C/6VグループM306V8用 M306V8T-EPB
- M16C/6NグループM16C/6N4, M16C/6N5, M16C/6NK, M16C/6NL, M16C/6NM, M16C/6NN用 M306NKT-EPB
- M16C/Tinyシリーズ用 M30290T-EPB
- R8C/Tinyシリーズ用 R0E521000EPB00
- M16C/70グループ用 M30700T-EPB (保守製品)
- M16C/62P, M16C/30Pグループ用 M3062PT-EPB (保守製品)
- M16C/6NグループM16C/6N4, M16C/6N5用 M306N4T-EPB (保守製品)

2. 内容

ターゲットプログラム(ユーザプログラム)実行中に、デバッガでターゲットプログラムからアクセスしないメモリ領域へのアクセス(参照や変更)を伴う操作をした場合、デバッガの操作によりアクセスした領域がカバレッジ計測結果に反映されます。

なお、ターゲットプログラム停止中にデバッガを操作してアクセスした領域は、カバレッジ計測結果に反映されません。

以下に発生例を示します。

- (1) ターゲットプログラム実行中に、エディタウィンドウ(プログラムウィンドウ) の表示モードをソースモードから逆アセンブリまたは混合モードへ切り替えた場合、エディタウィンドウ(プログラムウィンドウ)で表示している領域にユーザプログラムがアクセスしていなくてもアクセスしたようにカバレッジに記録します。
- (2) ターゲットプログラム実行中に、メモリウィンドウへの表示領域を変更すると変更後の領域にユーザプログラムがアクセスしていなくてもアクセスしたようにカバレッジに記録します。
- (3) ターゲットプログラム実行中に、スクリプトウィンドウ上で FILL または DUMP コマンドを実行すると、 FILL または DUMP コマンドによりアクセスした領域にユーザプログラムがアクセスしていなくてもアクセスしたようにカバレッジに記録します。

3. 回避策

カバレッジ計測機能使用の際は、ターゲットプログラム実行中に上記に示したような操作をしないようにしてください。

4. 恒久対策

本問題を回避するように、M16C R8C PC7501エミュレータデバッガ、および M32C PC7501エミュレータデバッガを次回リビジョンアップで改修予定です。

[免責事項]

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。